



脚下照顧～心を揃えて～

校 訓 「あかるく かしく たくましく」

教育目標 「自分を大切にし、他者を大切にする児童の育成」

[1月号]

2020年がスタートしました！



1月9日に始業式を行い、一年納めの3学期がスタートしました。体育館が工事中のため、残念ながら児童の元気な顔を見ながら話をする事ができませんでしたが、テレビ放送で今学期の校長としての願いをお話ししました。まず、元気に過ごしてほしいこと、そして、生活のめあてを意識してほしいこと、更に、最高の卒業式を全校で作りに上げていくことの3点をお話しさせていただきました。3学期がスタートして3週間が過ぎようとしていますが、多くの児童が始業式での話を実践してくれているように感じています。学校教育最大の行事「卒業式」に向かって、全校児童と教職員が一丸となって取り組みますので、保護者や地域の皆様の変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い致します。



鈴木徹選手の講演会を実施しました

本校は今年度、県指定「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」推進校として、一年間を通して各学級や行事等でオリンピック・パラリンピックのこと、世界の国々のこと、平和やインクルーシブ社会のこと等について学んできました。そしてこのたび、この事業の最大行事「オリンピック・パラリンピアン」を招いての講演会を、1月21日に本校体育館で実施しました。当日は、義足のハイジャンパー鈴木徹選手にご来校いただき、お話を伺いました。講演会の前に廊下で出会った3年生が、「鈴木選手、足治ったの？」と聞くぐらい、見た目には全く健常者と変わらない鈴木選手ですが、講演会では、交通事故で足を失ってしまったこと、小さいころから心臓の病気と言葉の病気があった苦しんだり悩んだこと等を話ししてくれました。児童は、映像や鈴木選手のお話、時には歓声を上げ、時には静まりかえって固唾をのみ、本当に集中して聞き入っていました。その後、鈴木選手が走り高跳びの実演のために、普段の義足から競技用の義足に付け替える場面では、膝下から足がない姿に会場が静まり返り、その直後には、児童の身長よりはるかに高いバーを軽々と飛び越える姿に大きな歓声が上がりました。「自分を好きになってほしい」が今回の講演会のテーマでしたが、この講演会を通して、子どもたちの心に大きく貴重なメッセージとなって届いたことと思います。



私が一番心に残ったのは、最後に実際に高跳びをしてくれた時に、跳び方がすごくきれいで義足をつけているとは思えなかったことと、自己ベストが2m02と鈴木選手の身長よりも高かったことです。交通事故で片足を失ったのに、スポーツをしようとする気持ちがすごかったです。片足を失った状態で自分を好きになるのは簡単な事ではないと思うので、鈴木選手は自分の足のことも認め、前に向かっていくことは本当にすごいと思いました。私も鈴木選手みたいに、何があっても前に向かっていけるような人になりたいです。(児童の感想)

学校から息子が帰ってきて、今日の鈴木さんの話どうだった？と聞いたところ、まず、足がない姿を見て泣きそうになった・・・と言いました。たぶん足がない人を見るのははじめてで、ビックリしたと思います。でも、足がなくても、努力すれば自分の好きなこと、やりたいことが出来るようになります、自信がもられたようです。息子にも自分のやりたいこと、夢中になれることを見つけられたらいいなと思いました。私自身も、周りの人に支えられている感謝の気持ちを忘れず、少しでも誰かのために役に立つ人間になれたらいいなと思いました。今年のパラリンピックを見るのが楽しみです。(保護者の感想)

「あやめっ子タイム」で楽しく元気にコミュニケーション



本校では、昨年10月より毎週水曜日の朝活の時間に「あやめっ子タイム」と銘打って、「ソーシャルスキルトレーニング」を始めました。内容としては、10分間でお互いの話を聞いたり聞いてもらったりするのですが、「最初と最後にあいさつをする」「話を聞くときは相手を見ながら笑顔で頷きながら聞く」「話をするときには相手を見ながら笑顔で話す」を守ることが約束になっています。日によってお題が違ったりメンバーが変わったりしますが、子どもたちは楽しそうに会話を弾ませています。この取り組みを通して、子どもたちに人との関わり合いの経験を積み重ね、対人関係を形成する基本となる態度を身に付けてほしいこと、また、お互いの理解不足や誤解がきっかけになり起こるトラブルをできるだけ無くすこと、更には、子どもたちの自己肯定感を高めること等を目指しています。安心して過ごせる学校や教室は、より良い子供同士の関係性が基盤となります。来年からは市内5校で取り組み、楡形学区の子どもたちの育成の柱としていく方向です。ご家庭でもお子さんと一緒に「あやめっ子タイム」に挑戦してみてください。

令和元年度3学期代表委員の任命を行いました

3学期の各学級の代表委員を任命しました。令和元年度最後の3学期に、各クラスをまとめる重要な役割を担ってくれる皆さんを紹介します。

3年	1組	神田時之介 遠藤 永羽	5年	1組	小川 舞華 塩澤夢琉歩
	2組	齊藤 あみ 山口 楓月		2組	尾川 颯思 塩釜 海
	3組	今田満莉奈 中上 航		3組	今田 大翔 山川 吏孔
4年	1組	藤森 綾 一ノ瀬夏海	6年	1組	井上みなみ 大柴 世那
	2組	大澤 輝翔 飯久保理紗		2組	伊藤 光梨 宮川 和華

6年生スキー教室に行ってきました

1月14日、6年生最後の学年行事であるスキー教室が実施されました。当日は全員参加で出発し、スキー場到着後慌ただしく準備・開校式を済ませ、指導していただくコーチの指示のもと、早速ゲレンデで実技が開始されました。天気は薄曇りだったのですが、寒すぎず雪のコンディションも最高で、コーチの丁寧な指導のもと元気よく練習に励みました。昼食はカレーライスおかわり自由で、多くの児童が2杯、3杯とおかわりをしていました。午後の練習終了まで誰も保健の国久先生の世話になることなく、自然の雄大さを全身で感じながら、この仲間と行く最後の校外学習を楽しむことが出来ました。



棚田の富士（校長雑感）

正月恒例の箱根駅伝、今年は何年以上に楽しみにしていました。それは、私たち（私と妻）の母校筑波大学が、26年ぶりに出場するからでした。そんな折、新聞に掲載されていた筑波大学弘山監督（陸上部3才下の後輩）の記事が目にとまりました。内容は、「私立大に比較して不利な要素が多い国立の筑波大が、なぜ箱根駅伝に再び咲くことが出来たのか？」の質問に答えるものでした。監督曰く、「学生たちが自らの意志で厳しい箱根駅伝出場への道を切り開く決意をし、チームとして本音をぶつけ合いつつ、困難を克服できたから、多くの困難を克服できた」とのことでした。話は変わって昨日（1月26日）、教え子であり本校の卒業生である五味翔太君から、嬉しい知らせが届きました。彼は、今夏のパラリンピック出場を目指しているのですが、新宿シティー馬拉ソンのハーフ馬拉ソンで、知的障害の世界記録を更新したというのです。翔太君は、小学生のころから地域の馬拉ソン大会で良い成績を収めていて、楡形中学校では中学駅伝日本一になりました。個人でも区間賞を獲得するなど、まさに優勝の立役者でした。そんな翔太君が中学生の頃、全国駅伝で区間賞を取って優勝したい。そして、家族や先生を喜ばせたい。」と毎日練習日誌に書いていたことを思い出します。

愛情いっぱい育てた子どもたちは、大人に依存する傾向が強くなります。それはそれで大切な経験なのですが、人間として自己実現するためには、「自己決定力」を強固な意志等を身に付ける訓練も必要です。箱根駅伝の選手が輝いて見えるのは、人間の心が持つこの崇高な精神を感じることからかもしれません。筑波大の選手のように自分の意志で目標を挑み、翔太君のように目標を持ち続けることは、無限の可能性につながる美しく力強い姿だと思いませんか。子どもたちみんなが、そんな輝きを持った人に育ってほしいと願っています。



